

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.19 ◇◆
2010年3月29日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート
「アジア・太平洋学校安全推進フォーラム」参加レポート
2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・

◆◆◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート

皆さんこんにちは！

桜の開花情報がメディアをにぎわせ、春の足音がすぐそこで聞こえるようになりました。この春から新たな環境へと踏み出す人にとっては、卒業式などの節目のイベントを終え、準備期間といったところでしょうか。

領域でも、卒業ではありませんが、今年度を締めくくるイベントが終了しました。第3回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウムです。このメルマガをご覧の皆様の中にも、ご参加くださった方がいらっしゃるかと思います。

年度末のお忙しい時期にも関わらず、250名を超える方のご参加をいただくことができました。この場を借りて御礼を申し上げます。

参加者の方で多かったのは、所属別では、大学や自治体、警察、業種別では、企業やNPO法人、大学などで教育に関連したお仕事をされている方です。教育関係の方が多かったのは、今回のテーマによるものでしょうか。

ただ、子どもたちと日々接している小・中・高等学校の先生方のご参加が少なかったのは、日程によるところも大きいのではとの声もいただいております。

さらに多様な分野で子どもの安全に関わっている現場の方や研究成果の担い手となる方にご参加いただくためにはどうすべきかについては、今後の課題です。アンケートなどでいただいた皆様からのご意見も合わせて、今後開催するイベントがさらに充実したものとなるよう、検討いたします。

小さなお子さんを連れてご参加いただいた方、シンポジウムに参加できなかった同僚に今日の内容を伝えたいとおっしゃっていただいた方、本当に色々な方とお目にかかることができたのは、主催者側の私たちにとって嬉しい限りですが、何よりも、参加者の皆さまにとって、今回のシンポジウムが少しでもお役に立つことが本望です。

シンポジウムの様子は、NHKニュースでも放送されました。ご覧になった方もおられますでしょうか。シンポジウムの開催報告の記事や、各プロジェクトのポスターや配布物につきましては、後日領域WEBサイトに掲載予定です。

ここからは、その他の領域活動についてです。

3月初めには、月1回程度開催している領域会議を実施。この領域も、4月でちょうど折り返し点となる4年目を迎えます。最近では、残り3年間の領域活動をどのように進めていくかが中心議題の1つとなっていて、具体的な企画をこれから練っていかねばなりません。シンポジウムや領域ウェブサイトのアンケートで寄せられた皆様のご意見も活用していきたいと思っています。

「演劇WSをコアとした地域防犯ネットワーク構築」プロジェクトでは、2月から数回に渡り一連のワークショップを私立の小学校で実施。その最終回である演劇発表会に行ってきました。ワークショップでは、劇団員と子どもたちが協働をして台本作りから取り組みますが、子どもたちは駅員やタクシー運転手、警備員など、様々な役割を演じるため、独自に町でインタビューを実施したとのこと。

防犯演劇を作る過程を通してコミュニケーション能力を育て、防犯への意識を高めることを目指し研究開発を進めています。このプロジェクトは開始よりまだ半年。演劇を通し子どもたちに何を伝えていくのか、科学的効果をどのように検証していくのか、更なる発展に期待です。

「系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト」では、プロジェクト独自のウェブサイトを立ち上げ、レポートや開発中のシステムの一部を公開しています。

系統的な「防犯学習教材」研究開発・実践プロジェクトウェブサイト
→ <http://www.kodomo-bouhan.jp/>

また、3月30日に都内で、「地域の防犯ボランティア力を活かす」と題して公開シンポジウムを開催する予定です。プロジェクトの取組み紹介や教材・システム開発に協力いただいている複数の地域の方々による発表、「子どもを守るための地域防犯に本当に必要な支援とは」と題してパネルディスカッションを開催予定です。

「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトでは、4月9日に「Intelligence-Led Policing」などの著者でもある米国テンプル大学犯罪学科のジェリー・ラトクリフ教授を招聘し、「地理的犯罪分析と犯罪予防」と題した公開セミナーを都内で開催する予定です。

ラトクリフ教授のホームページ：<http://jratcliffe.net/>（英語）

詳しくは、メルマガのイベント情報または、領域WEBサイトをご覧ください。

それでは、最後までお楽しみください。



●第7回学校危機メンタルサポートセンターフォーラム
「アジア・太平洋学校安全推進フォーラム」参加レポート
2010年3月5日 大阪教育大学附属池田小学校（大阪府池田市）

春らしい暖かな三月上旬に、大阪教育大学が主催する標記フォーラムに参加してきました。

このフォーラムは、「学校危機の諸相とその予防戦略を考える」をメインテーマに連続的に開催されているもので、今回は、「附属池田小学校におけるInternational Safe School (ISS) 認証への取組み」と「アジア・太平洋地域における学校安全推進の取組み」に関する情報共有を目的に、小・中・高等学校の教職員や自治体の学校安全担当者などを対象に開催されました。

ISSとは、世界保健機関（WHO）地域安全推進協働センターが中心となって認証活動を進めているもので、児童生徒や地域などとともに、安全な環境づくりを目指して継続的、組織的に努力する学校を認証する制度のことです。

ちょうどこのイベントが行われたのと同じ日に附属池田小学校が日本で初めて認証されました。

フォーラムは、シンポジウム（講演、会場との質疑応答）と展示発表から構成されていました。シンポジウムのコーディネーターを務めたのは、当領域の「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」プロジェクトの研究代表者でもある、藤田大輔 大阪教育大学教授／附属池田小学校長です。藤田教授は、冒頭に「各国における学校安全に関する取組みを発信、共有し、日本の安全教育のさらなる発展を願いたい」と述べました。

講演では中国、タイ、マレーシアの3カ国の行政関係者が登壇し、各国の事情や特徴を踏まえ、事故や自然災害への対策なども含めた学校安全に関する様々な取り組みの事例などが紹介されました。

マレーシアでは、学校安全水準評価というものが試験的に実施されており、計70項目からなるチェックリストからスコアを算出するというもので、将来的には、全校で活用されることを目指しているとのこと。

この中で、社会問題に対する安全管理という項目で挙げられていた例に、民族の融和がありました。宗教も言語も違う子どもたちが学校でぶつかり合うと大変ということで、マレーシアでは大きな問題となっているそうです。最近では日本でも、外国人の子どもへの教育支援が取り上げられるようになってきましたが、この辺りは国の特徴がよく出ています。

中国では、毎年3月の最後の週の月曜日を「全国小中学生安全教育の日」と定め、毎年設定される安全教育に関するテーマに沿ったイベントが全国の小中学生を対象に開催されているとのこと。中国全土の義務教育の学生人口は1億3千万人だそうなので、さぞや盛大な1日になることでしょう。

もちろんそれだけではなく、中国の国土は広大で地域差もあるため、

地域に即した安全教育の実施や、教員への研修など安全教育に対する積極的な展開が図られている様子でした。

タイでも、全ての学校に災害予防プログラムの導入を目指すなど、動きが様々あるようで、国などの機関と学校のネットワークの拡充も大事だと述べていました。その中で、学校は第2の家であるので、単なる勉強の場ではなく、安心して学べる環境であることが大事とのコメントが印象的でした。

この、学校と国などの様々な機関の連携については、どの国も力を入れているようで、教育担当の部署だけでは対応が難しい現状が垣間見えました。

また、休憩時間を利用して行われたポスター発表では、附属池田小学校、大韓民国、タイ、台湾の4つの小学校での取組みに関するポスターが展示され、関係者と直接対話できる機会とあって、小学校の不審者対策等のより具体的な取り組みについて質疑が飛び交うなど、参加者と各国の関係者間で熱心な議論が交わされていました。

附属池田小学校のコーナーでは、タッチパネル形式の子どもの怪我の情報を蓄積するシステムの実演をしていました。これは、パソコンの画面上に子どもの全身が描かれており、怪我をした部位をタッチすると情報が蓄積されるというもので、参加者は興味深げに見入っていました。このシステムは教員だけでなく生徒たちも直接入力しているとのこと。

さらに、校内には防犯ブザーやビデオカメラの設置はもちろんのこと、不審者が侵入した場合は、犯人を確保するグループ、児童を誘導するグループに分かれて対応するなど体制も徹底している様子でした。また、閉会時に学校安全の中核を担わなければとの発言もあり、附属池田小学校関係者の強い思いが伺えました。

個人的に意外だと思ったのは、学校安全に関する国際的な取組みは少ないという事実。関係者からは、今回のような機会がまたあればとの期待も寄せられていました。

ちょうど会場となった体育館の付近が2001年に起こった痛ましい事件の現場とのこと。帰り際に思わず立ち止まって一瞬足が進まなくなってしまい、胸が痛みました。今回のフォーラムに参加して、各国の取組みの現状が把握できたとともに、根底には子どもが安心して学べる環境の実現という共通の思いがあるということが十分に伝わってきました。

(領域担当 S.F.)

2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取組み

「児童ポルノ排除対策ワーキングチーム（第1回）」の開催について
<http://www8.cao.go.jp/youth/cp-taisaku/index.html>

少年非行等の概要（平成21年1～12月、警察庁）
<http://www.npa.go.jp/newlyarrived/?seq=2063>

ラジオと地域情報メディアの今後に関する研究会（第1回会合）議事要旨（総務省）
http://www.soumu.go.jp/main_content/000056448.pdf

法制審議会総会第162回会議 答申
凶悪・重大犯罪の公訴時効の在り方等に関する要綱（骨子）（法務省）
<http://www.moj.go.jp/SHINGI2/100224-4.html>

有害情報に係る普及啓発リーフレット
～「ちょっと待って！はじめてのケータイ」等～（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/02/1290385.htm

第33回社会保障審議会児童部会資料（厚生労働省）
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/02/s0217-11.html>

その他の取組みについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成22年3月30日 「系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト」
シンポジウムー地域の防犯ボランティア力を活かすー
<http://www.kodomo-bouhan.jp/sub01/symposium.html>

平成22年4月9日 「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」
プロジェクト公開セミナー「地理的犯罪分析と犯罪予防」
http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/pdf/y_harada06.pdf

平成22年4月23日～第113回日本小児科学会学術集会
<http://www.jpeds.or.jp/gakujutsu-j.html>

平成22年4月23日～こども環境学会2010年大会 第7回 大会
「感性の子どもたち」
http://www.children-env.org/file/1001_hiroshima_ps.pdf

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【今月の見どころ】

今月の見どころはトピックスから、近日掲載予定のプロジェクト実施者インタビューと関与者インタビューの2本です。

今回取材したのは、「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトの皆さんと、同プロジェクトと地域の方の協働により開催されたワークショップの様式です。

効果的で継続的な防犯まちづくりを目指すこのプロジェクトでは多くの関与者がいらっしゃいます。犯罪学や建築学の研究者の方から地域でまちづくりに尽力していらっしゃる方まで多種多様なメンバー構成です。それだけ、まちづくりのステークホルダーが多いということの現れかもしれません。

ワークショップの紹介記事では、実際にどのような参加者の下、どのような議論が行われ、そのような展開を見せたのかをレポートしています。また、今回のワークショップの舞台となった千葉県市川市の自治会長や市役所の方へのインタビューも掲載しています。

来週早々にはWEBサイトの以下のページに掲載いたしますので、ぜひご覧ください。

トピックス → <http://www.anzen-kodomo.jp/column/>

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

- ☆ 1位 マネジメントグループの紹介
<http://www.anzen-kodomo.jp/profile/group/>
- 2位 イベント情報
<http://anzen-kodomo.jp//event/index.html>
- 3位 研究開発プロジェクト
<http://anzen-kodomo.jp//program/research/index.html>

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

- ▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>
- ▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2010年3月29日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
